

静岡県で働く女性医師の皆さんを応援します



## 令和3年度 事業報告書



# 目次

## 1 ご挨拶 ..... 1

山内 克哉 浜松医科大学医学部附属病院リハビリテーション科 病院教授  
谷口千津子 浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター 特任講師

## 2 事業について ..... 3

- ・ 活動概要
- ・ 取り組み
- ・ 構成メンバー

## 3 実績報告 ..... 5

- ・ 成 果
  - ① 就業・復職・キャリア形成支援について
  - ② 相談事業について
  - ③ 大学診療科、県内医療機関等への訪問等について
  - ④ 浜松医科大学との連携
  - ⑤ 県内医療機関との連携
  - ⑥ 令和3年度静岡県医師数アンケート報告
- ・ 実施状況
  - ① 啓発活動
  - ② 相談窓口の設置
  - ③ センターの活用
  - ④ マタニティ白衣・マタニティパンツの無料貸出し

## 4 広報活動・情報発信 ..... 27

- ① ホームページについて
- ② パンフレットの配布
- ③ メディア掲載
- ④ 講演会・シンポジウム等の参加

## 5 アクセス・発行について ..... 32



# ご挨拶



## センター長挨拶

山内 克哉

浜松医科大学医学部附属病院

リハビリテーション科 病院教授

女性医師にとっての共通の悩みとして、結婚や出産・育児と仕事の両立です。子育てを行っている期間、女性医師は長期休職となることが多く、復帰してもパートタイマーとして働くことが多いのが現状です。特に時間外勤務や夜勤が多い診療科では、出産、育児により現場を去る女性医師が増加しています。県全体の女性医師支援を推進する「ふじのくに女性医師支援センター」を設置し、情報発信を中心とした支援に加え、出産等により離職した女性医師からの就業相談、求人病院とのマッチング、キャリア形成支援、病院訪問による離職医師の情報収集など、より実効性の高い取り組みを積極的に実施することで、女性医師が更に活躍する仕組みを構築しています。

静岡県の医師不足は深刻であり、女性医師支援は、医師不足の解消という目的もあります。浜松医科大学では、平成21年～25年にかけて「静岡周産期医師長期支援プログラム」を文部科学省の事業として行い、平成25年から27年まで女性医師支援相談窓口設置事業が静岡県の浜松医科大学への補助事業として行われた後に、浜松医大女性医師支援センターが、静岡県のふじのくに女性医師支援センターとしても機能しています。出産後の女性医師の復帰は、静岡県の医療にとっても実現すべき重要な目標ですので、出産後早期の職場復帰をサポートし、非常勤医師の常勤化を促していきたいと考えています。

女性医師の職場復帰にとって、情報の集積と発信は大きなツールとなるため、県内のどのような病院がどのような条件で女性医師の復帰を行っているか、また勤務形態や給与などの情報を集積するために、センターでは谷口医師を中心に県内病院を訪問し、大きな成果を挙げています。コロナ禍で本年度は、病院訪問が限定されていましたが、コロナの収束とともに県内病院への訪問も再開予定です。病院訪問時には積極的な情報交換を行いたいと思いますのでご協力の程よろしく願いいたします。

嬉しい事に、ふじのくに女性医師支援センターへの相談件数は年々増加し、県外からの就業相談も増えてきました。相談内容は、病院の勤務形態や専門医の取得、知識・手技の取得や研究の継続といった仕事面の事や、育児面（子供の預け先、病児保育、マタニティ白衣、母乳育児の継続、子供の教育相談など）と多岐に渡る相談があります。同じ問題や悩みを抱える女性医師が頼る場となることがふじのくに女性医師支援センターの目指すところです。対象女性医師が気軽にしかも実質的に利用できるようなセンターを理想と想い描いています。皆様からの要望もお待ちしていますので、是非お気軽にご利用下さい。



## 専任医師挨拶

谷口 千津子

浜松医科大学医学部附属病院

女性医師支援センター 特任講師

男女共同参画とは、男女が社会的にも、家庭内においても互いに協力し意欲に応じて活躍できる場が確保され、一人ひとりの豊かな人生の実現を目指すものとして広く認識されてきています。医療の世界でも女性医師の増加がみられ、育児や家庭生活のすべてが女性に任されるのではなく、男女が平等に家庭と仕事の両立が出来る環境作りをしていくことが求められています。近年では子育てに積極的に参加する男性医師も増加し、女性医師と同様に家庭と仕事の両立について相談に来られるようになりました。一方で、職場でも家庭でも日本的な男女の役割意識はなかなか根強く、目標とする支援の形に多様性が求められ、どのような支援が適切なのか迷うこともしばしばです。

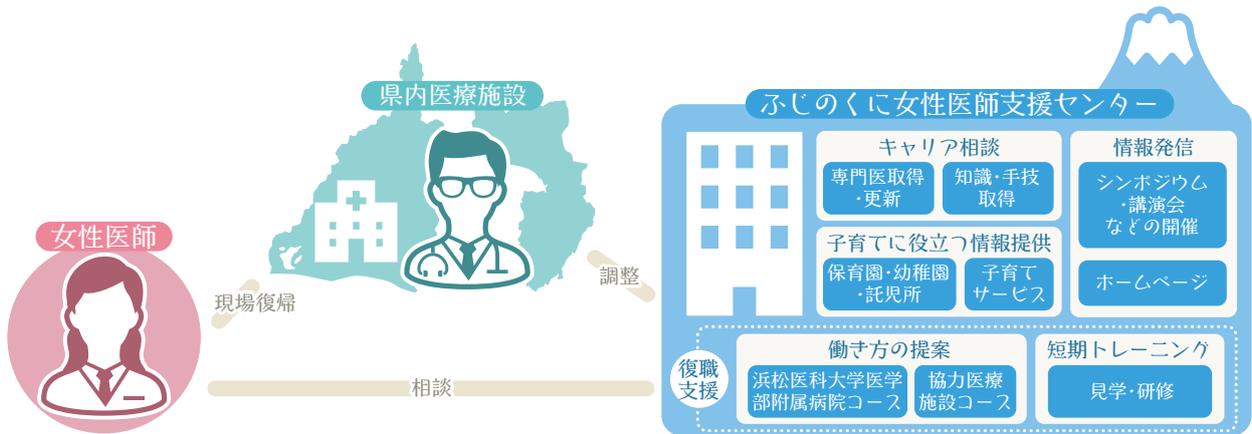
「ふじのくに女性医師支援センター」は県内の公的医療機関や浜松医科大学の各診療講座の先生方にご協力をいただいて5年目の活動となりました。一人でも多くの先生が家庭人としての生活を享受しつつ、医師としてもキャリアを形成し地域で活躍できるように県内医療機関と連携して支援する事、また県外の医師にも静岡県で就業する魅力をお伝えし、就業を希望される際にはより細やかな情報提供を行う事で静岡県の医師不足を解消する一端を担えればと考えています。

女性医師のキャリアを進めていく経験はいろいろな形で、後に続く人たちも繋がっています。県内で頑張っている先生方の活躍を、これから新たにキャリアを積んでいこうとする先生方のロールモデルとしてつなげていけるようなネットワークの中継組織でもありたいと考えています。来年度は新しい情報提供の形を模索しつつ皆様に活用していただけるセンターを目標に活動をしていきたいと考えています。これからも皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

# 事業について

## 活動概要

県全体の女性医師支援を推進する「ふじのくに女性医師支援センター」を設置し、これまでの普及啓発、情報発信を中心とした支援に加え、出産等により離職した女性医師からの就業相談、求人病院とのマッチング、キャリア形成支援、病院訪問による離職医師の情報収集など、より実効性の高い取組を積極的に実施することにより、女性医師が県内で更に活躍する仕組みを構築します。



## 取り組み

### キャリアサポート

#### ①キャリアコンサルタント

出産・育児や介護などライフイベントによる医師としてのキャリア継続の不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方へキャリア支援のためのコンサルティングを行っています。

#### ②復職支援

それぞれの状況に合わせた、働き方の提案を行っています。浜松医科大学をはじめ、県内の医療施設と連携し、スムーズに復職ができるようサポートします。

浜松医科大学女性医師支援枠（参照 11P）

復職支援協力医療施設（参照 13P）

#### ③啓発活動（参照 21～24P）

静岡県医師会・浜松医科大学と共催で講演会やシンポジウムを開催しています。

これから医師を目指す人、現在働いている先生、病院の管理者の先生方が情報共有できるようイベントを通して情報発信をしています。

### 両立サポート

①情報提供（子どもの預け先、育児サービス等）

②マタニティ白衣とマタニティパンツの無料レンタル

## 構成メンバー

### ふじのくに女性医師支援センター

区 分	内 容
開 設 日	平成 29 年 4 月 3 日 (月)
開設場所	浜松医科大学医学部附属病院 (病院棟 5 階 503 号室)
組織体制	センター長 山内 克哉 (浜松医科大学医学部附属病院リハビリテーション科病院教授) コーディネーター (専任医師) 谷口 千津子 (浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター特任講師) コーディネーター (専従事務員) 袴田 菜穂子 (浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター)
時 間	午前 9 時から午後 5 時まで

### 女性医師支援連絡協議会

区 分	内 容
目 的	センターの運営が、設置の趣旨に沿って効果的に行われるようにするため、女性医師支援連絡協議会を設置
協議委員	会 長 奈良 雅文 静岡県健康福祉部参事 会長代理 山内 克哉 浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター長 委 員 中川 陽子 静岡県立静岡がんセンター検診センター医長 委 員 宮崎 文 静岡県立総合病院移行医療部成人先天性心疾患科医長 委 員 宮下 正 静岡県医師会理事 委 員 谷口千津子 浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター特任講師

# 実績報告

## 1) 成果 (R4.3.10 現在)

### ①就業・復職・キャリア形成支援

県内医療施設での就業や出産・育児を経て医療現場への復帰を希望する医師への支援を行いました。

#### (ア) 就業支援

県内外在住の医師が静岡県内での就職先を求めた際に、県内医療機関への就業に伴う支援を行いました。

区分	人数
就業相談	40名
就業支援者(上記相談の内)	10名(今年度2名、来年度8名)

#### (イ) 復職支援

県内医療機関に就業中の女性医師が産休・育休後復帰、あるいは休職中の女性医師が医療現場に復帰をする際の支援を行いました。また、就業支援対象者に対し、浜松医科大学各診療科講座と連携し、講座非常勤医師、あるいは「浜松医科大学女性医師支援枠」において復職する際に個別の復職プログラムを作成・運用しました。

区分	人数
復職相談	14名
復職支援者(上記相談の内)	12名(今年度8名、来年度4名)

大学復職支援者一覧(平成29年～)

診療科	人数
内科	3名
産婦人科	8名
皮膚科	2名
精神科	1名
形成外科	1名
小児外科	1名
合計	16名

#### (ウ) キャリア形成支援

県内在住の女性医師のキャリア形成に関して、支援を行いました。大学各診療講座と連携・対応し、相談者である女性医師の希望に合わせて専門医資格・更新に関する情報提供や研修医療施設の情報提供及び紹介を行いました。

区分	人数
キャリア形成相談	21名

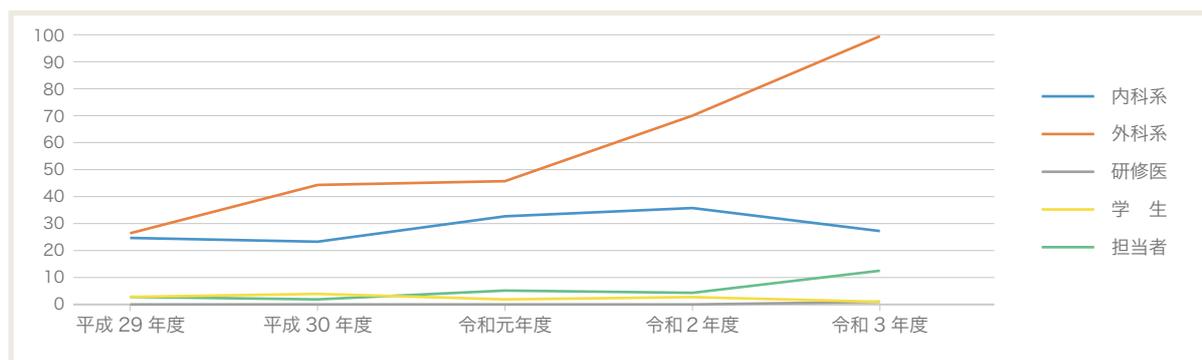
②相談事業について（項目件数）

区分	実績件数
就業相談	219件
キャリア形成相談	84件
その他相談	32件

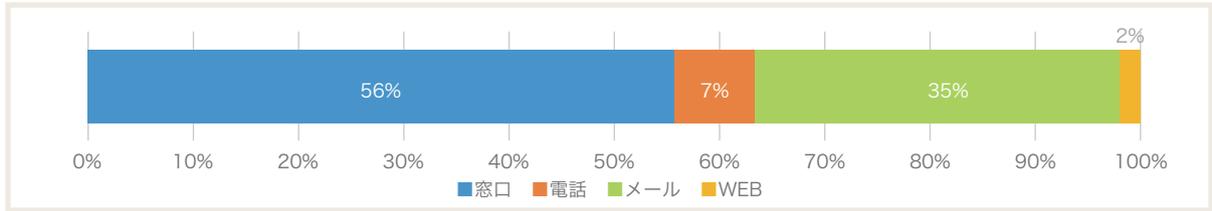
相談者数内訳：相談者数 55名（医師44名、医学生1名、担当者等10名）、相談回数142回

区分	診療科	医師				学生	担当者等
		卒後5年未満	卒後5年～10年未満	卒後10年～15年未満	卒後15年以上		
医師	内科		4	2	1		
	精神科				1		
	小児科			1			
	外科	1	1	3	1		1
	整形外科						
	皮膚科	1	2				1
	眼科				1		
	産婦人科	2	4	5	4		1
	放射線科				1		
	麻酔科蘇生科			1	1		
	形成外科			1			
	小児外科				1		
	リハビリテーション科		1	1	1		
	病理診断科						
	救急科				1		
	研修医	1					
学生					1		
担当者等						7	
<b>合計 55名</b>		5	12	14	13	10	

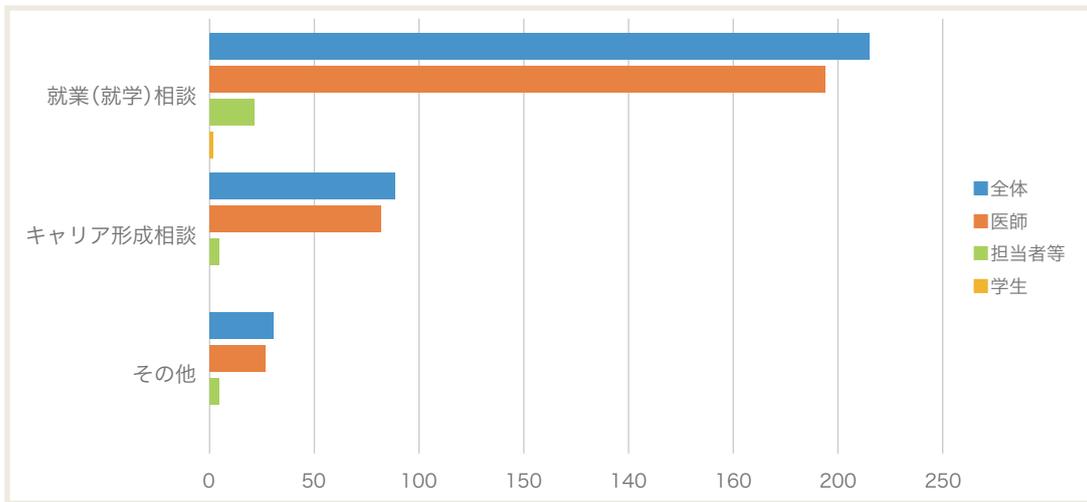
相談件数の推移



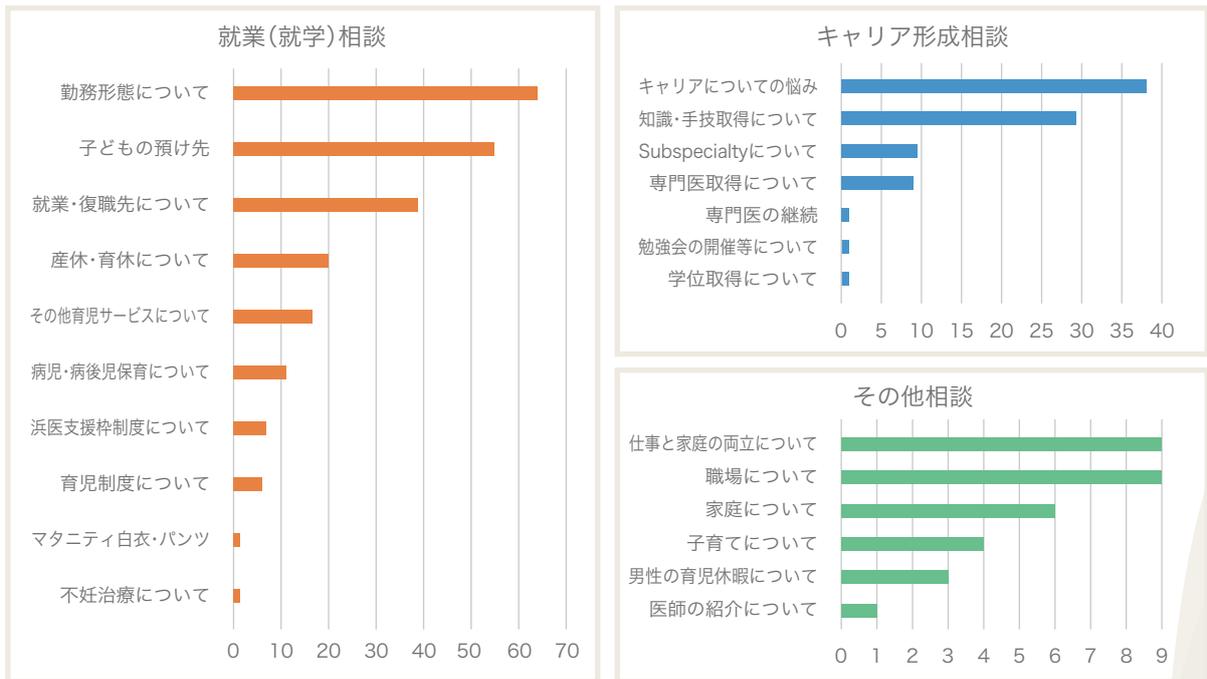
相談方法



相談項目別 (※ 1回の相談において複数の項目が該当する場合あり)



相談内容内訳 (※ 1回の相談において複数の項目が該当する場合あり)



就業・キャリア形成にかかわる相談は年ごとに件数は増加しており昨年比125%です。相談者内訳は卒後5年目から15年目の相談が7割以上を占めており、外科系からの相談や上司・指導者からの相談が増加しました。相談方法は従来、窓口またはメールが主でしたが、コロナ禍の折、遠方からの相談に対してwebによる面談も始めました。

相談内容は例年同様、復職に伴う勤務形態や保育園関連の相談が上位を占めていますが、本年は自身のキャリアの相談や新たな資格取得のための相談などもみられました。

### ③大学診療科、県内医療機関等への訪問等について

区分	浜松医科大学	医療機関
訪問数	15 診療科	8 施設

#### 【浜松医科大学訪問診療科一覧】

腎臓内科	第二外科	放射線科
消化器内科	眼科	放射線科治療科
精神科	皮膚科	麻酔科
小児科	耳鼻咽喉科	リハビリテーション科
第一外科	産婦人科	形成外科

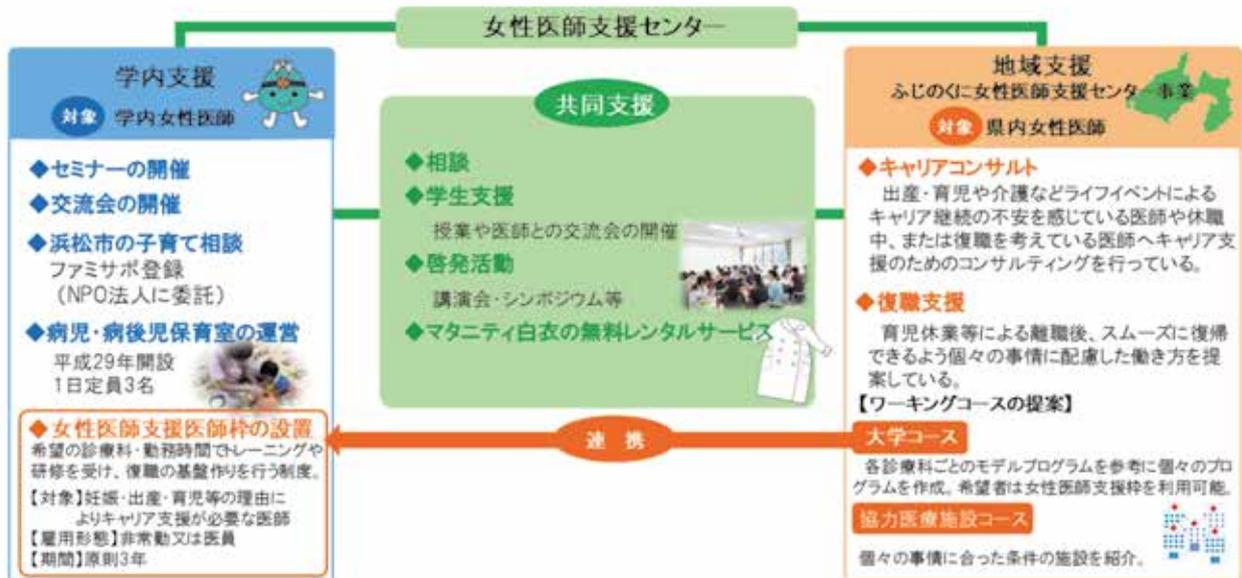
#### 【県内訪問医療機関一覧】

裾野赤十字病院	すずかけセントラル病院
三島総合病院	市立湖西病院
富士宮市立病院	日本平病院
伊東市民病院	遠州病院（オンライン面談）

## ④浜松医科大学との連携

### 1) 大学との連携、組織図

ふじのくに女性医師支援センターは静岡県のご委託事業として浜松医科大学が中心となり取り組んでいます。学内支援では大学女性医師支援センターが主体となり、学内女性医師を対象に病児・病後児保育室の運営やイベントを行っています。地域支援ではふじのくに女性医師支援センターが主体となり、県内全域の女性医師を対象に各医療施設と連携して就業・キャリアに関する幅広い支援を行っています。



2) 診療科訪問・復職トレーニングモデルプログラムの作成依頼

15 診療科を訪問し、事業の報告と各講座の状況を確認しました。

現在、49 プログラムが浜松医科大学女性医師支援センターホームページより閲覧可能です。

※復職トレーニングプログラムとは出産や育児で一時的に臨床の第一線から離れざるを得なかった女性医師に対して、キャリア継続支援を目的として作られた就業計画書です。

浜松医科大学女性医師支援センターホームページ

<http://www2.hama-med.ac.jp/w1b/woman/index.html>

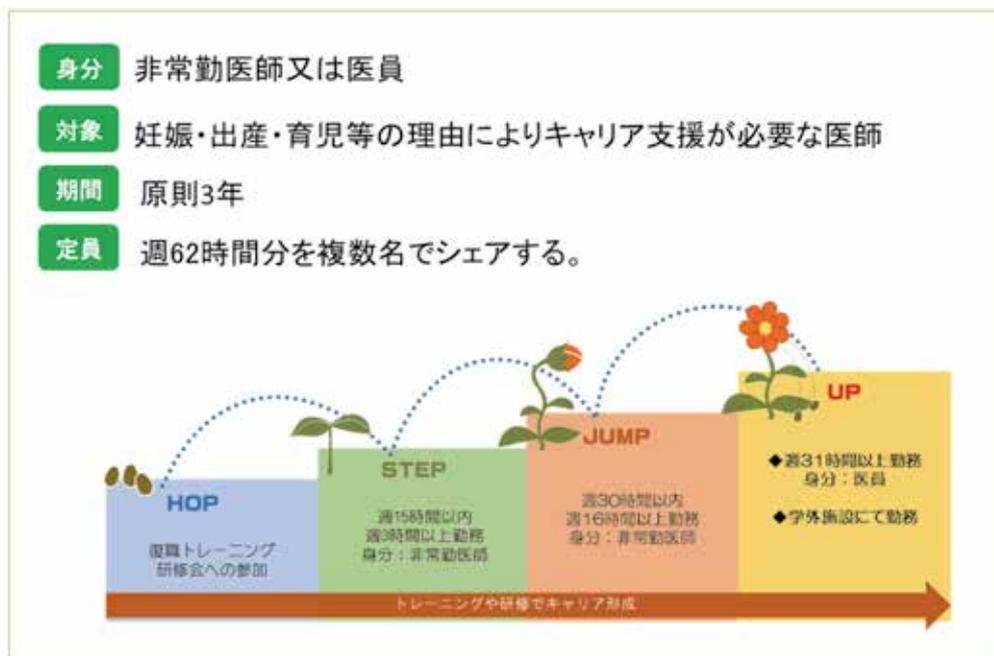


浜松医科大学連携講座・診療科一覧

診療科	プログラム数	診療科	プログラム数	診療科	プログラム数
第一内科	3	整形外科	2	リハビリテーション科	1
第二内科	6	皮膚科	1	形成外科	1
第三内科	6	泌尿器科	1	病理診断科	—
精神科	3	眼科	1	救急科	1
小児科	6	耳鼻咽喉科	1	小児外科	—
第一外科	5	産婦人科	3	口腔外科	—
第二外科	—	放射線科	4	地域家庭医療学	2
脳神経外科	1	麻酔科	1	プログラム合計	49

3) 浜松医科大学女性医師支援枠の活用

常勤として勤務が困難な女性医師を含め、離職を避けるために、浜松医科大学女性医師支援センターにて採用枠を設け、医員または非常勤医師として雇用します。支援枠を利用している期間は希望の診療科でトレーニングや研修を行い、非常勤の医師は常勤医として大学または県内医療機関で復職できるよう基盤作りを行います。この制度を活用しながら大学で復職希望の医師をサポートしています。



申込みの流れ



1. 利用希望者はエントリーシートに記入をし、勤務開始希望月の3ヶ月前までにセンターに申請をしてください。
2. エントリーシートに沿って現状や希望する勤務内容の確認を行います。
3. センター長と診療科担当医が申請の受理について検討します。
4. 採用となった場合は就業に関する具体的な内容について最終確認を行います。
5. 希望月より就業を開始します。

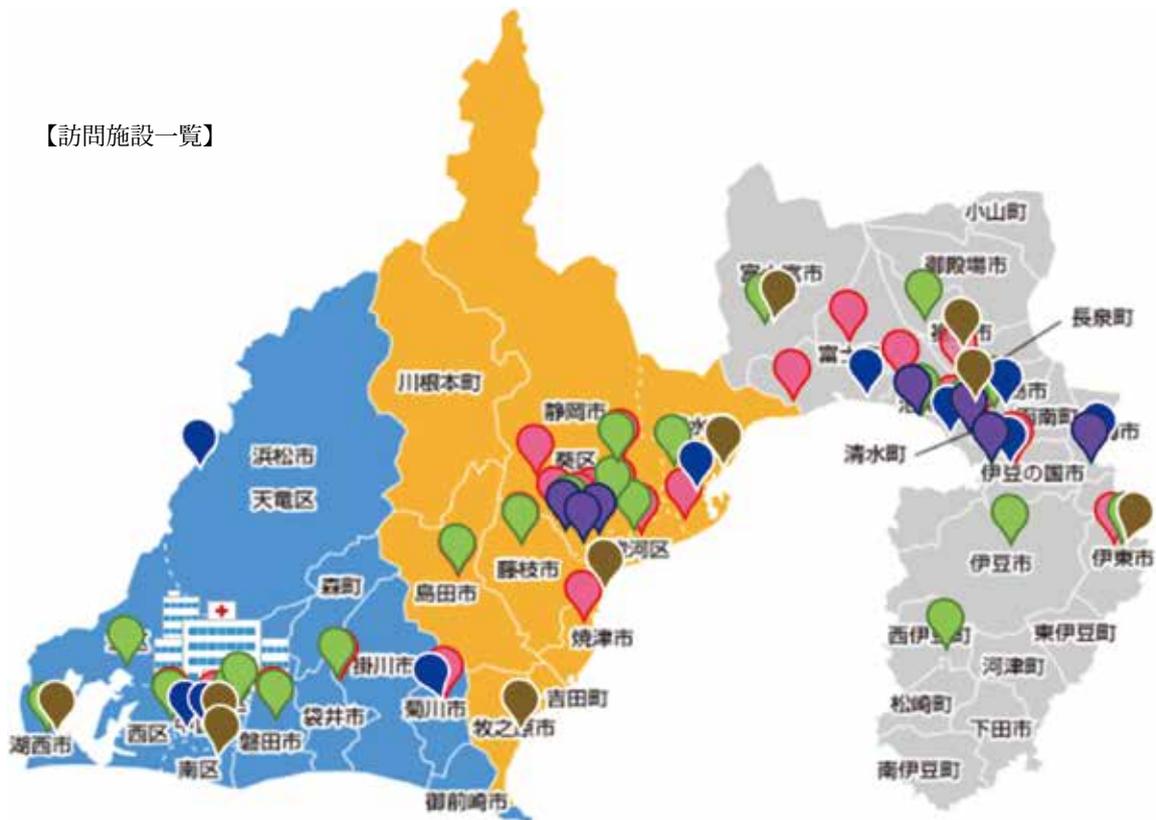
## ⑤ 県内医療機関との連携

### 1) 訪問・協力依頼

県内の公的医療機関等は6施設を訪問し、その他医療施設を2施設訪問しました、各病院長・担当医師・担当事務と面談し、下記について依頼しました。

- ① 事業への協力（復職支援協力医療施設としてホームページに登録）
- ② 院内の女性医師数等の情報提供
- ③ 院内での周知活動（チラシ・パンフレットの配布）
- ④ 担当者がいない施設については配置依頼

【訪問施設一覧】



- 平成29年度訪問施設
- 平成30年度訪問施設
- 令和元年度訪問施設
- 令和2年度訪問施設
- 令和3年度訪問施設

2) 復職支援協力医療施設

復職支援協力医療施設とは下記の全ての条件を満たす施設です。

- ◆ 仕事と家庭を両立するための支援制度がある。
- ◆ 専門医取得や更新を目指した就業支援が可能である。
- ◆ ふじのくに女性医師支援センターのホームページに復職支援協力医療施設として情報を登録し、センターのバナーを施設のホームページに貼ることが可能である。
- ◆ ふじのくに女性医師支援センターの活動に協力が可能な施設である。

ホームページでは結婚・育児等で休職中の女性医師や家族の転勤に伴い県外から転居してきた女性医師が離職することなく、スムーズに勤務継続ができるよう復職支援協力施設の検索や閲覧できます。

【ホームページ登録施設一覧】

■ 公的医療機関等

施設名
下田メディカルセンター
伊東市民病院
裾野赤十字病院
伊豆赤十字病院
三島総合病院
NTT 東日本伊豆病院
富士宮市立病院
富士市立中央病院
静岡県立こころの医療センター
静岡県立こども病院
静岡赤十字病院
静岡厚生病院
清水厚生病院
島田市立総合医療センター
藤枝市立総合病院
磐田市立総合病院
中東遠総合医療センター
浜松医療センター
浜松赤十字病院
遠州病院
聖隷浜松病院
聖隷三方原病院

■ その他医療機関

施設名
聖隷沼津病院
三島共立病院
日本平病院
岡本石井病院
静岡徳洲会病院
十全記念病院
浜北さくら台病院
すずかけセントラル病院
平安の森記念病院

■ 診療所

施設名
木村産科・婦人科
坂の上ファミリークリニック
浜松佐藤町診療所
やまなしクリニック
クリニックさくら

【復職支援協力医療施設一覧】(R4.1.19 現在)

◆東部 23 施設

区分	施設名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録	区分	施設名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録
公	下田メディカルセンター	○	○	○	公	NTT 東日本伊豆病院	-	○	○
公	西伊豆健育会病院	-	○	-	公	順天堂大学医学部附属静岡病院	○	○	-
公	伊東市民病院	○	○	○	公	富士宮市立病院	○	○	○
公	国際医療福祉大学熱海病院	○	○	-	公	共立蒲原病院	○	○	-
公	静岡医療センター	○	○	○	公	富士市立中央病院	○	○	○
公	静岡県立静岡がんセンター	○	○	-	公	鷹岡病院	-	○	-
公	沼津市立病院	○	○	-	病	熱海所記念病院	○	○	-
公	裾野赤十字病院	○	○	○	病	聖隷沼津病院	○	○	○
公	伊豆赤十字病院	○	○	○	病	三島共立病院	-	○	○
公	伊豆医療福祉センター	-	○	-	病	池田病院	-	○	○
公	三島総合病院	-	○	○	病	富士整形外科病院	○	○	-
公	沼津中央病院	○	○	-					

◆中部 16 施設

区分	施設名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録	区分	施設名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録
公	静岡県立こころの医療センター	○	○	○	公	清水厚生病院	○	○	○
公	静岡県立こども病院	○	○	○	公	清水駿府病院	○	○	-
公	静岡県立総合病院	○	○	-	公	島田市立総合医療センター	-	○	○
公	静岡市立静岡病院	○	○	-	公	焼津市立総合病院	-	○	-
公	静岡市立清水病院	○	○	-	公	藤枝市立総合病院	○	○	○
公	静岡赤十字病院	○	○	○	病	日本平病院	-	○	○
公	静岡済生会総合病院	○	○	-	病	岡本石井病院	-	○	○
公	静岡厚生病院	○	○	○	病	静岡徳洲会病院	-	○	○

◆西部 24 施設

区分	施設名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録	区分	施設名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録
公	磐田市立総合病院	○	○	○	公	遠州病院	○	○	○
公	中東遠総合医療センター	○	○	○	公	聖隷浜松病院	○	○	○
公	聖隷袋井市民病院	—	○	—	公	聖隷三方原病院	○	○	○
公	市立御前崎総合病院	—	○	—	病	十全記念病院	—	○	○
公	菊川市立総合病院	○	○	—	病	浜北さくら台病院	—	○	○
公	公立森町病院	—	○	—	病	すずかけセントラル病院	—	○	○
公	浜松労災病院	○	○	—	病	平安の森記念病院	—	○	○
公	天竜病院	○	—	—	診	木村産科・婦人科	○	—	○
公	浜松医療センター	○	○	○	診	坂の上ファミリークリニック	—	○	○
公	佐久間病院	○	○	—	診	浜松佐藤町診療所	○	○	○
公	市立湖西病院	—	○	—	診	やまなしクリニック	○	—	○
公	浜松赤十字病院	○	○	○	診	クリニックさくら	○	—	○

区分 公：公的医療機関等 病：その他の医療施設 診：診療所

登録がお済でない医療施設はふじのくに支援センターホームページ TOP → 復職支援情報 → 復職支援協力医療施設登録より簡単に登録が可能です。是非ご協力をお願いします。

URL: <https://www.fujinokuni-w.jp/>

## ⑥令和3年度静岡県医師数アンケート

- ◆目的 静岡県内の医療機関に所属する女性医師の就業実態を調査することにより、県内女性医師支援活動の現状把握と今後の活動の方向性を検討する
- ◆調査期間 令和3年6月～8月
- ◆対象 静岡県内医療機関（病院）
- ◆回答施設数 101施設（回答率59.1%）

### Q1 2020年4月1日時点での医師在籍数

区分	全体	男性医師	女性医師
常勤医師	4288	3465	823
非常勤医師	2113	1752	361

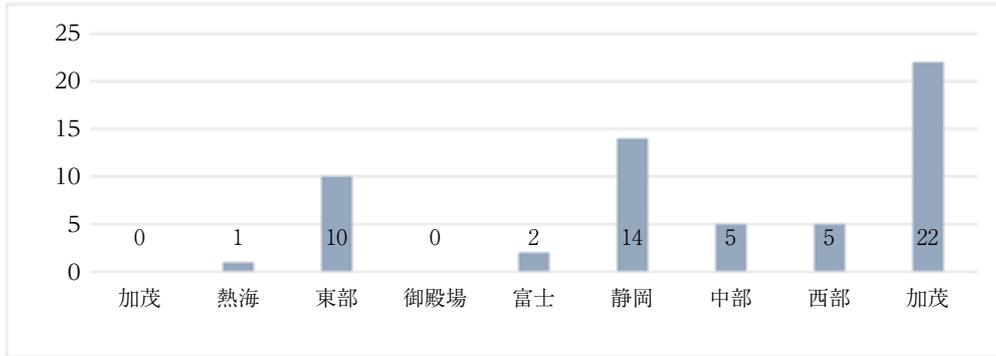
### Q2 2020年4月～2021年3月までの期間に県外から就業した女性医師数

全体	東部	中部	西部
186	72	89	25

順天堂大学医学部附属静岡病院	32	新富士病院	2
静岡市立清水病院	27	芹沢病院	2
コミュニティーホスピタル甲賀病院	20	池田病院	2
聖隷浜松病院	13	静岡県立総合病院	2
焼津市立総合病院	11	藤枝市立総合病院	2
静岡赤十字病院	7	藤枝平成記念病院	2
浜松医科大学医学部附属病院	7	はいなん吉田病院	2
静岡県立こども病院	6	浜松労災病院	2
静岡県立静岡がんセンター	5	浜松医療センター	2
沼津市立病院	5	沼津リハビリテーション病院	1
熱海 海の見える病院	4	慈広会記念病院	1
富士市立中央病院	4	岡村記念病院	1
静岡医療センター	3	共立蒲原総合病院	1
三島共立病院	3	静岡てんかん・神経医療センター	1
静岡済生会総合病院	3	静岡県立こころの医療センター	1
静岡徳洲会病院	3	島田市立総合医療センター	1
国際医療福祉大学熱海病院	2	岡本石井病院	1
自衛隊富士病院	2	浜松南病院	1
富士脳障害研究所附属病院	2		

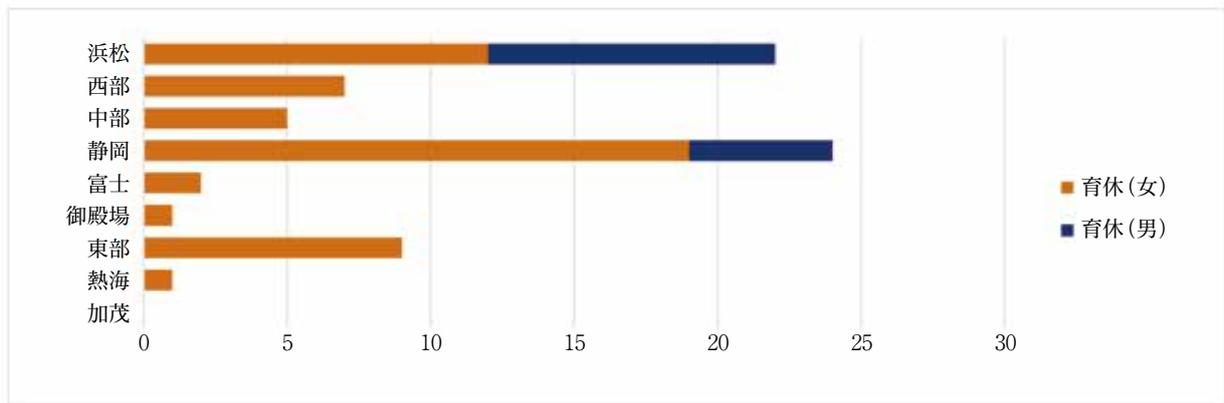
Q3 2020年4月～2021年3月までの期間に産休・育休を取得した医師数、また復帰した医師数

◆産前産後休暇取得者数 59名(常勤女性医師の7.17%)



◆育児休暇取得者数 【男性医師】 8人(常勤医師の0.23%)

【女性医師】 63人(常勤医師の7.65%)



- ・産休・育児休暇取得者は常勤医が40人以上在籍している医療施設がほとんどであった。主に公的医療機関在籍者
- ・男性医師育児休暇所得者在籍施設は静岡市内、浜松市内の公的医療機関6施設であった。

◆復職者数( )表示は同年度の育休取得者数

区分	男性医師	女性医師	合計数
復職数	8(8)	31(63)	39

男性医師は復職率100%、女性医師は施設により0%～100%

男性医師は年度内の復職をするが、女性は年度をまたぐ育児休業を取るためと推測される。

令和3年度は静岡県内の医療機関に所属する女性医師の就業実態を調査することを目的に静岡県病院協会のご協力の元、県内医療機関に向けてアンケート調査を行いました。101施設からご回答をいただきました。

県内医療機関に従事する常勤女性医師の割合は19.2%と全国平均よりやや低く、1年間に県外から入職した女性医師は186人(研修医を含む)、地域別では中部・西部に多い傾向が見られ、連携している大学や研修医の在籍などの影響がある為と考えられます。

産前産後休暇は常勤女性医師の約7%が取得しており、育児休暇も女同程度の割合を占めている事から産前産後休暇を取る医師はほぼ育児休暇を取得している事が推測されます。

男性育児休暇取得者は常勤男性医師の0.23%でした。男性医師の場合、常勤医師が多く在籍している施設で短期間の育児休暇取得をされている為、今後そのような施設で男性医師の育児休暇取得の流れが大きくなることを期待したいと思います。

今回のアンケートにより当センターが今まで把握できていなかった県内女性医師の就業実態を確認することができました。次年度は県外の医師に対しては効果的な情報提供を、県内医療機関に就業されている先生方に対しては更に相談のしやすいセンターとなるべく対策をとる必要が認識されました。また今回のアンケートでは産休育休取得者の年代や診療科については調査できませんでしたので、今後調査の幅を広げて必要な支援・情報提供を把握していきたいと思えます。

アンケートにご協力いただきました医療機関の皆様、病院協会の皆様にはご協力に感謝申し上げます。

## アンケート回答施設一覧

静岡県内 101 施設の医療機関に回答頂きました。ご協力頂きありがとうございます。

※施設名は回答時の表記で掲載しています。

### ◆加茂地区

下田メディカルセンター	公益社団法人地域医療振興協会 伊豆今井浜病院
-------------	------------------------

### ◆熱海地区

医療法人社団伊豆七海会 熱海海の見える病院	医療法人社団伊豆七海会 熱海所記念病院
南あたま第一病院	国際医療福祉大学熱海病院

### ◆東部地区

三島総合病院	独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター
静岡県立静岡がんセンター	沼津市立病院
裾野赤十字病院	伊豆赤十字病院
伊豆医療福祉センター	J A 静岡厚生連リハビリテーション中伊豆温泉病院
公益財団法人復康会 沼津中央病院	公益財団法人復康会 沼津リハビリテーション病院
一般財団法人芙蓉協会 聖隷沼津病院	医療法人社団親和会 西島病院
ふれあい沼津ホスピタル	三島森田病院
医療法人社団志仁会 三島中央病院	医療法人社団静岡健生会 三島共立病院
医療法人社団清風会 芹沢病院	医療法人社団 慈広会記念病院
医療法人社団宏和会 岡村記念病院	医療法人社団聡誠会 池田病院
農協共済中伊豆リハビリテーションセンター	順天堂大学医学部附属静岡病院
N T T 東日本伊豆病院	

### ◆御殿場地区

自衛隊富士病院	御殿場石川病院
---------	---------

### ◆富士地区

富士宮市立病院	共立蒲原総合病院
富士市立中央病院	公益財団法人復康会 鷹岡病院
一般財団法人 富士心身リハビリテーション研究所附属病院	一般財団法人 富士脳障害研究所附属病院
一般財団法人 恵愛会 聖隷富士病院	医療法人社団 鵬友会 フジヤマ病院
医療法人社団 一芦会 芦川病院	大富士病院
医療法人財団 百葉の会 湖山リハビリテーション病院	医療法人社団 喜生会 新富士病院
聖明病院	

## ◆静岡地区

静岡てんかん・神経医療センター	独立行政法人地域医療機能推進機構 桜ヶ丘病院
静岡県立こころの医療センター	地方独立行政法人静岡県立病院機構 静岡県立こども病院
静岡県立総合病院	地方独立行政法人 静岡市立静岡病院
静岡市立清水病院	静岡赤十字病院
静岡済生会総合病院	J A 静岡厚生連静岡厚生病院
J A 静岡厚生連清水厚生病院	静岡リハビリテーション病院
医療法人社団 第一駿府病院	静岡瀬名病院
溝口病院	医療法人沖縄徳洲会 静岡徳洲会病院
日本平病院	

## ◆中部地区

島田市立総合医療センター	焼津市立総合病院
藤枝市立総合病院	榛原総合病院
岡本石井病院	社会医療法人駿甲会 コミュニティーホスピタル甲賀病院
聖稜リハビリテーション病院	藤枝平成記念病院
誠和藤枝病院	はいなん吉田病院

## ◆西部地区

磐田市立総合病院	掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター
袋井市立聖隷袋井市民病院	菊川市立総合病院
市立湖西病院	医療法人弘遠会 すずかけヘルスケアホスピタル
服部病院	福田西病院
浜名病院	

## ◆浜松地区

浜松労災病院	浜松医科大学医学部附属病院
独立行政法人国立病院機構 天竜病院	浜松医療センター
浜松市リハビリテーション病院	浜松市国民健康保険 佐久間病院
引佐赤十字病院	JA 静岡厚生連 遠州病院
医療法人福慈会 佐鳴湖病院	平安の森記念病院
かば記念病院	医療法人社団綾和会 浜松南病院
すずかけセントラル病院	朝山病院
浜松とよおか病院	医療法人社団三誠会 北斗わかば病院
医療法人社団誠心会 浜北さくら台病院	十全記念病院
聖隷浜松病院	聖隷三方原病院
常葉大学リハビリテーション病院	

## 2) 活動報告

### ①啓発活動

医学生・医師・管理者の先生方が情報共有を目的に静岡県医師会・浜松医科大学と共催で講演会を開催しました。

#### ◀学生・研修医・医師交流会 はまキャリア 2021▶

会 期	令和3年7月30日(金)
開催方法	オンライン
参加者	学生3名、医師5名

#### 【概要】

今年もオンラインでの開催となりました。

最初の質問は「ライフイベントのタイミングはいつが良いか」でしたが、毎年学生の皆さんから出される質問です。それだけ自身のキャリアにとって影響のある事柄と認識されているのだなと感じます。ご協力頂いたアドバイザーの先生方からは「専門医取得の前と後ではそれぞれのメリット・デメリットがあるけれど、いつが良いかと計画を立てるよりも、自分のやりたい事を見つけながら自分の良いと思ったタイミングでライフイベントを迎えれば良いと思います。あとは自分にとって良いパートナーを選ぶこと！」と貴重なご意見を頂きました。

その他、医師以外のパートナーとどこで出会えるのか、保育園は入ることができるのか、研修先や医局はどこが良いのか、大学院や留学のタイミングはいつが良いのか、等々、幅広く質問がありました。

昨年に引き続き、オンラインの開催で最初は皆さん緊張した面持ちでしたが、ご協力頂いた先生方のお蔭で楽しい雰囲気ですべて終了することが出来ました。

ご参加頂きました皆様、ありがとうございました。



学生・研修医・医師交流会  
はまキャリア 2021  
仕事と家庭の両立は大変?!  
医師同士の結婚ってどう?  
専門医を取ってからどう働く?  
自分のキャリアプランをデザインしてみませんか?  
先輩ドクターがお答えします!

日付 7月30日(金)  
15:00~16:00  
開催方法 オンライン開催  
対象 医学生・研修医・医師

オンラインなので遠方から気軽に参加できます!  
男性医師も参加します!

申込 締切:7月21日(水)  
申込先:ネット申込みは右側のQRコードから申込みください。  
メールでの申込みの方は上記のアドレスにご連絡ください。  
E-mail: info@hama-emc.or.jp

主催:浜松医科大学女性医師支援センター  
ふじのくに女性医師支援センター

氏名・学年・メールアドレスをお知らせください。

### ◀ ロールモデル講演会 ▶

会 期	令和3年11月5日(金)
開催方法	ハイブリッド
参加者	オンライン 36名 会場 20名

#### 【概要】

今年は医師夫婦をテーマに3名の先生方にご講演頂きました。

ふじのくに女性医師支援センター専任医師でもある谷口千津子先生はご自身の結婚生活を振り返り、ご主人とのエピソードや失敗談を楽しく話して頂きました。お互いに得手不得手があるので上手く分担をして、求めすぎない様にすることが円満のコツとのことでした。

聖隷浜松病院の志田麻子先生は研修医時代に出産、育休が取得できない中での復帰を経験されました。同期からの遅れがとても不安でしたが、実際に働き始めると制限がかかる中でも新しい知識や技術は身につけていると感じ、目の前のことではなく長い目で自分が満足できる働き方ができれば良いと考えることが出来たそうです。

藤枝市立総合病院整形外科の鈴木重哉先生はなんと6人のお子様のお父さんです。実は3年前には奥様にご講演頂きました。お子様が増えていく段階で奥様からの風当たりの変化を敏感に感じ、ご自身の家庭に対する意識の変化を分かりやすくお話頂きました。奥様の名言「夫が妻の負担になってどうするの」納得の言葉です。

どの先生方も心に響くご講演で座談会も和やかな雰囲気でもっと楽しく終了することが出来ました。また、オンライン参加を取り入れたことで沢山の方にもご参加頂きました。演者の先生方、参加頂きました皆様ありがとうございました。



### ◀ キャリア支援シンポジウム～働き方改革とこれからの支援～ ▶

会 期	令和4年1月28日(金)
開催方法	オンライン
参加者	医師 39名 その他 11名

#### 【概要】

6回目のキャリア支援シンポジウムを開催しました。2024年度から始まる働き方改革に対し医師の働き方とはどうあるべきか?を主軸にプログラム構成をしました。藤田医科大学の米本倉基先生には様々なテーマから見る働き方改革の必要性を軸にドイツの医師の働き方の考え方と日本との違い、欧米と日本の法の違いとそこから日本の医師の働き方をどのように考えればよいか教えていただきました。浜松医大の渡辺裕司先生には医育機関と同時に研究機関でもある大学でのキャリア支援・女性医師支援、若手や大学院生に対する研究支援プロジェクトの在り方と今後の展望をご紹介いただきました。県医師会副理事も務められている小林利彦先生にはわかりにくい働き方改革の制度について解説をしていただいたうえで「働き方改革へ対応を医師の健康確保としてとらえる。」という違う視点からご講演していただきました。

Web開催という事もあり、今回は県内医療機関から多数の方が参加して下さいました。

女性医師に限らず医師の働き方を皆で考えていかなければならない現状、新しい意識と体制づくりをしていかなければいけないと意識される会だったと思います。

ご講演頂いた先生方、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

キャリア支援シンポジウム

開催  
オンライン

## 働き方改革と これからの支援

令和4年 1月28日(金)  
17:00~18:30

対象 どなたでもご参加頂けます

講師

- 米本 倉基 先生  
藤田医科大学 大学院 医療マネジメント学 教授  
「欧州に学ぶ医師の働き方改革  
ちよっと不思議な話?サーバル」
- 渡辺 裕司 先生  
浜松医科大学 教授、医学博士  
「浜松医科大学が進めるキャリア支援と現状の課題」
- 小林 利彦 先生  
福井県医師会 副理事  
「医師の働き方改革」の正しい理解  
～臨床現場で働く医師へのメッセージ～

申込締切 令和4年1月24日(月)

申込方法

- メール申込  
左記の住所 連絡先または学年 宛メールアドレス 電話番号  
をご明記の上、下記のアドレス宛にお送りください。
- WEB申込  
右のQRコードを読み込んで頂き  
申込フォームにご入力ください。

お問い合わせ 浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター事務局  
053-435-2380 dr-info@hama-med.ac.jp  
メール申込先はこちらのメールアドレスにお送りください

主催：静岡県医師会 ふじのくに女性医師支援センター 浜松医科大学女性医師支援センター



### ◀ 学生講義 ▶

ライフイベントやキャリア形成について、学生のうちから考えられるよう講義の中でロールモデルの紹介や医師を取り巻く現状等を伝えています。今年度は3回講義を行いました。

日 程	令和3年5月7日（金）
対 象	医学生2年生 121名
講 師	谷口 千津子 「医学生のためのキャリア形成入門」
日 程	令和3年9月21日（火）
対 象	医学生6年生 121名
講 師	谷口 千津子 「ライフイベントをプラスに変える！～働く側・支える側 それぞれのメリット」
日 程	令和3年11月10日（水）
対 象	医学生4年生 114名
講 師	安田 日出夫（女性医師支援センター 副センター長） 「女性医師支援」の本質は何か 藤澤 泰子（女性医師支援センター 運営委員） 「女性医師支援～ダイバーシティの視点から」

#### 【アンケートより】

- ・ 医師になってからのキャリアパスについて学ぶ機会はこれまでもありましたが、今回は結婚後のキャリアや働き方についても触れた内容だったので新鮮でした。グループ討論のテーマでもあった医師同士で結婚した際の育児に関しては、男女どちらもが仕事を続けながらも子供を不安にさせない育児ができるような新しい医師の働き方が必要だと思いました。
- ・ 共働きで頼れる人がいないと、子供が熱を出すという、よくあることで簡単に窮地に追い込まれてしまうのだとディスカッションを通じて感じました。また、職場の周りの人にも頼ってみる、職場の環境を変えるという安田先生の発想は私にはなかったもので、驚くと同時にそのようなことを言ってくださる方が上の年代にいるというのはとても安心でき、ありがたいことだと感じました。
- ・ 女性医師として家庭と両立させながら働くことの大変さを知りました。特に、その原因として、妻に家事をやってもらい平日休日働くことが医師として当たり前に求められていること、家事をやりながら医業をこなそうとするとかなり仕事量が多くなってしまふことがわかりました。将来キャリアを続けていけるような選択ができるといいです。



## ②相談窓口の設置

出産・育児などライフイベントによる医師としてのキャリア継続の不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方へ就業・キャリアに関する相談窓口を開設しています。

対応者	コーディネーター2名（専任医師1名、専従事務員1名）
開設時間	平日9時から17時まで

## ③センターの活用

センターでは畳スペース・ソファスペース・テーブルスペースを自由にご利用いただくことが出来ます。カーテンで仕切り体調不良時の休憩や搾乳として利用したり、一時的な保育スペースとして活用いただいております。大学に所属する医師だけでなく、これから復職を考えている方や他の病院に勤務されている方等、どなたでもご利用いただけます。



#### ④マタニティ白衣・パンツの無料貸出し

ふじのくに女性医師支援センターと浜松医科大学女性医師支援センターの共同事業です。

産前休暇を取得するまで仕事のモチベーションを保ちながら、快適に業務に携わることが出来るようサポートしています。

利用者	大学
医師	1名

### マタニティ白衣・パンツのご紹介

嬉しい工夫がいっぱいあります♡

#### マタニティ白衣の特色



規格（標準サイズとの比較）

サイズ	着丈	バスト	肩幅	袖丈
S	95	97	38	53
マタニティS	90	112	38	51
M	100	101	39	55
マタニティM	95	116	39	51

※標準サイズは浜松医科大学の白衣サイズを掲載しています。

#### マタニティパンツの特色

規格

サイズ	ウエスト	ヒップ	太もも	股下
S	78	90	29	70
M	86	100	31	72
L	94	112	34	74



2枚1セットでレンタルいたします。  
詳しくはホームページをご覧ください！

マタニティ白衣・パンツ  
ご案内ページ➡



# 広報活動・情報発信

## ①ホームページについて

静岡県内で活動する女性医師の就業や子育てに関する情報とふじのくに女性医師支援センターの取組を掲載するホームページを平成30年2月に開設しました。医師としてのキャリア形成や仕と家庭の両立を希望する女性医師が医療機関情報や地域の子育て支援情報をインターネット上で容易に収集できる



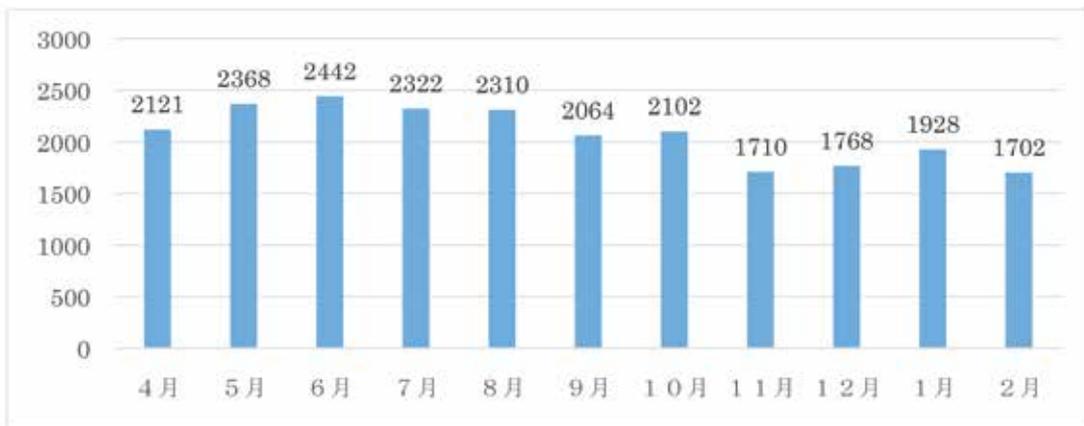
ことで県内での就業復帰を後押しすることを目的としています。

ふじのくに女性医師支援センターホームページ  
<https://www.fujinokuni-w.jp/>

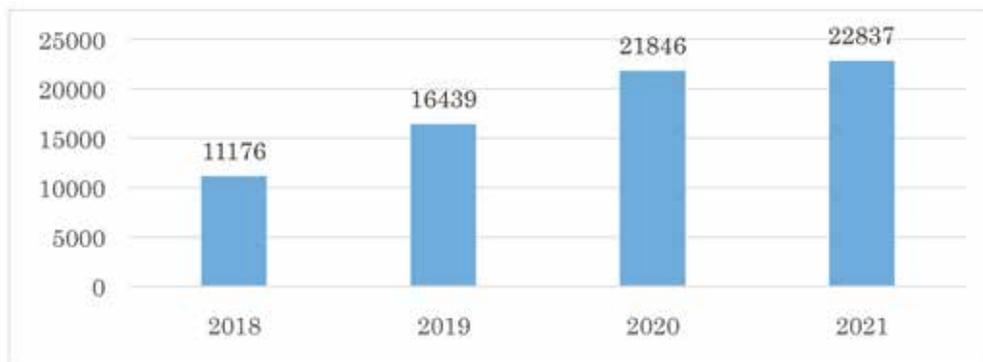


## サイト分析結果

令和3年度月別

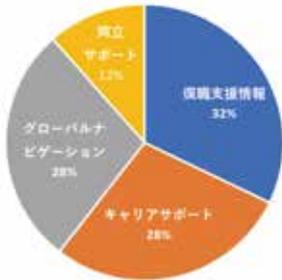


平成30年度から令和3年度年別



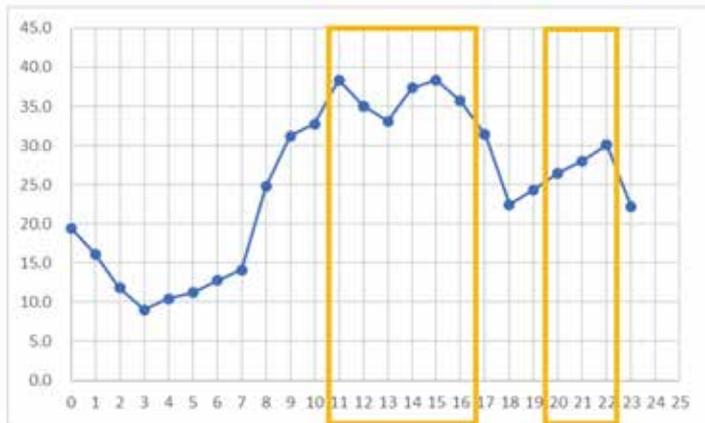
※アクセス数は Webalizer ソフトを使用し、30分以内の同一IPを除いた訪問者数をカウントしています。

コンテンツごとのアクセス割合（※ TOP ページとお問い合わせは除く）



復職支援情報、キャリアサポートは Hits 数が多いのですが、両立サポートは半分以下で、課題は視認性と他 2 項目との関心の差と考えられます。キャリアサポートではロールモデル紹介ページのアクセス数が多いため、引き続き掲載記事を増やしていくとともに両立サポートページの見直しも今後の課題として見えてきました。

サイトが見られている時間帯（一人あたり平均閲覧ページ数より）



一番閲覧されているのがお昼前の 11 時台～夕方 16 時台、続いて 20～21 時台という結果でした。タイムリーな情報提供を行うためにコンテンツの投稿は午前中が一番効果的であり、次のタイミングは夕方の投稿が良いと分かりました。

サイト視聴機器（PC vs スマホ）



PC 利用率は 6 割超でした。一般的な企業での PC 利用率は 7 割のため、同水準であることが分かりました。勤務先での閲覧が多いためと考えられます。

まとめ

コロナ禍によりオンラインでのコミュニケーションが普及している中、相談者にとってウェブサイトは情報収集や相談媒体として非常に重要な存在となっています。今回の分析で訪問者の閲覧状況や興味があるコンテンツが具体的な数値として明確になりました。ワンストップの情報提供ができるよう、魅力的なコンテンツの充実を目指すと共に SNS を活用し、より多くの方にセンターを知っていただけるよう、来年度の活動に繋げてきたいと思えます。

## ②パンフレット配布

広く周知をするため、パンフレットを作成し県内医療施設と浜松医科大学各診療科及び卒業式・入学式、各イベントにて配布しています。



### ③メディア掲載

静岡県男女共同参画センター・あざれあ情報誌 epoca vol.139 / 2021年8月号

「この人に聞く！」にて紹介

WEB マガジンエポカ 谷口千津子 | 女性の復職～ふじのくに女性医師支援センター取組

<https://azarea-epoca.jp/yaguchichizuko.html>

エポカ vol.139 / 2021年 8月号

静岡県男女共同参画センター・あざれあ情報誌

# epoca

この人に聞く！

**谷口 千津子 さん**  
ふじのくに女性医師支援センター 専任医師  
浜松医科大学附属病院 女性医師支援センター 特任講師

**女性の復職 ふじのくに女性医師支援センターの取組**

近年、ワーク・ライフ・バランスの実現を掲げる企業が増え、男女共に「家庭と仕事の両立」について考える機会が多くなりました。しかし、出産・育児から復職した後の生活プランに頭を悩ませる女性はいまだ多いのが現状です。

ふじのくに女性医師支援センター及び浜松医科大学附属女性医師支援センターでは、学内や県内で働く女性医師の復職支援を行っています。ふじのくに女性医師支援センターの専任医師である谷口千津子さんに、その取組について伺いました。

**◆センターの支援内容**

ふじのくに女性医師支援センターは、平成29年から県の委託を受けて、医師や大学の所属にかかわらず、女性医師の復職支援を行うことを目的に浜松医大の中に開設されました。

医師に限らずですが、結婚や出産といったライフイベントが重なる時期に仕事の中でもキャリアを積んでいかなければいけない。そういう若手医師が大学病院をはじめとして県内の病院にはたくさんいらっしゃいます。仕事と家庭の両立が難しいと感じると現場から離れ、キャリア形成をあきらめてしまう女性医師もいます。仕事と家庭の両立をお手伝いするために産休・育休明けの人や、夫の転勤で県外から転居してきた人などに復職・就業支援を行い、現在、子育て真っ最中で悩むことが多く皆さんに対して子育てやキャリアの相談、講演会等の啓発活動や働き方の提案といった活動を行っています。

静岡県は東西に長い県で、遠い地域でも当センターと連携できるように、県内医療機関を東部から西部まで順次訪問をさせていただき、情報共有ができるよう支援担当者を置いてもらっています。情報をいただいた際、その施設の女性医師の支援は、対応するようにしています。

特に10年目以下の若手の医師が多く所属している浜松医大の中では出産後の女性医師の支援について、所属している診療科等の理解が必要となってきます。本来、大学病院の勤務形態は、所属する診療科等のルールに従うことになります。しかし出産後その全てのルールに添えられず、キャリア形成をあきらめ退職する場合もあるためセンターでは単独への準備期間として、新たな採用枠「女性支援センター所属の医師・非常勤医師」を設けました。仕事自体はもとものと自身の専門科ですが、女性医師支援センター所属となることで、就業する前に自分に可能な働き方を診療科の先生と当センターで確認をして就業時間、業務内容を決定しますので自分のペースで就業時間を設定でき、研修を継続することができます。

(※ページへ続く)

静岡県男女共同参画センター・あざれあ  
〒422-8063 静岡市駿河区黒川 1-17-1  
TEL: 054-250-8147 FAX: 054-251-5085 e-mail: info@azarea-navi.jp  
URL: <https://www.azarea-navi.jp/>  
編集・発行: あざれあ交流企画グループ

(前ページの続き)

相談は現在、対面や電話、メールで受けており、相談件数の実績は年々上がってきています。一番多い相談は「子どもが保育園・学童保育に入るのが難しい」ということ。近頃は院内保育施設がまわりますが、地域の保育園を希望する人は多いです。また小学校に入ると更にお子さんの預け先に苦労する話をよく聞きます。当センターは、浜松市のファミリーサポートセンターの運営を担っている「認定NPO法人はまっ子育てネットワークびっぴ」の協力を得て、情報提供や手続き支援を行っています。

女性医師に限らない話ですが「どういうかたちで仕事と家庭が両立できるか」は誰も教えてくれません。私たちは相談を受けた時、御自身がどのような希望があるのかを伺った上で様々な働き方の提示や具体的に現在両立している先輩医師と話をする機会を提供したりしています。キャリア形成の相談にはその診療科の専門的な情報が必要になってきますので大学内の各診療科と連携し、どのような勤務をしていけばよいかなど働き方の具体的な相談もしています。

**◆上司や夫も悩んでいる**

女性医師を指導する立場の先生から「どこまで仕事をしてもらえばいいの」と相談を受けることがあります。指導する先生も女性の働き方に関心を持つ人が増えてきましたが、具体的にどういう配慮をすればよいか、わからないところがあるようです。また女性医師は、自身の復職について子育てと仕事のバランスについてどこまで要望してよいか分からない中、指導する先生に復職について直接話をすることになり、不安に思いながら復職準備をしながらも進みます。特に医師は事務的な制度については上司も当事者も詳しくない方が多く、センターはそのような情報提供をしながら第三者的な立場で、女性医師の要望、上司の要望、双方から話を聞き入る必要のお手伝いをしています。その方がお互いに伝えたいことがはっきり伝えられ、復職後の問題も起こりにくくなるのではないかと考えています。

女性医師の夫からの相談も増えました。「自分も育児がとれないか」「妻と同じように自分も育児に関わりたい」と話す人もいます。「夫婦がお互いにどうやって仕事と家庭を両立するか」という復職後のプランを夫婦で考える場面に、センターが立ち会ったりすることもあります。

当大学では女性医師と話をしたいという女子学生もいるので、交流会を開催しています。ここには子育て中の男性医師も参加して夫の立場から、上司の立場からもざっづらんに話をします。学生には自分たちの未来を見てほしいですね。男子学生にも自分のパートナーがどのようなことで悩むのか、自分の立場で考えてもらえるよう参加してもらえよう働きかけをしています。

**◆新型コロナウイルス感染症の影響**

この一年でオンライン形式のイベントが広く世間に浸透しました。今までは対面のみで実施していた講演会やシンポジウムを、今年は対面とオンラインのハイブリット形式で開催します。オンラインのおかげで遠方からの参加者もいます。子どもを見ながら自宅から参加できる気楽さもいいのかもしれません。

また、医師は学会に参加することでキャリアを積むという側面があります。育児中の学会参加は難しいですが、去年はオンラインのおかげで学会参加が増えたという人が多くいました。このメリットは今後も活かしていきたいです。

**◆一人ではなく、みんなで**

男女共同参画の意識は、男女問わず広がってきていると感じます。「女性もやみくもに働け」というよりは、「どんなかたちでもいかに復職できるように周囲が協力する」という風になってきています。ただ、その負担のかかるサポート役の先生が疲れてしまうので、お互い無理せず、グループチーム制を作るのが理想かなと思います。

一般企業も同じだと思いますが、産休・育休後に復職する時、常勤が「1」だととして、その「1」働くことは難しいです。0.7でも0.5でもいいから現場に居る道をつかっていきたいです。

**マタニティ白衣・パンツのご紹介**

ふじのくに女性医師支援センターでは、妊婦中の女性医師にマタニティ白衣・パンツの無料レンタルを行っています。服装の変化に合わせてワークアウト可能な、嬉しい工夫がいっぱいあります。

★詳しくはこちらをご覧ください。  
<http://www2.hama-med.ac.jp/w1b/woman/content/rent.html>

#### ④講演会・シンポジウム等の参加

令和3年6月29日

第2回「医師の働き方改革」に関する意見交換会

(令和3年度 勤務医委員会・ワークライフバランス WG 合同委員会)

Web 会議

令和3年5月25日

全国ダイバーシティネットワーク組織 東海・北陸ブロック医学系大学会議主催セミナー及び情報交換会  
【セミナー】

・テーマ：医師の働き方改革へ向けた医療系大学のダイバーシティの在り方

・講師：岡山大学病院ダイバーシティ推進センター長・教授 片岡仁美 先生

Web 会議

令和3年6月11日

令和3年度第1回全国ダイバーシティネットワーク組織 東海・北陸ブロック会議

・東海・北陸地域の18大学が参加し各大学のダイバーシティ関連状況を報告

Web 会議

令和4年2月15日

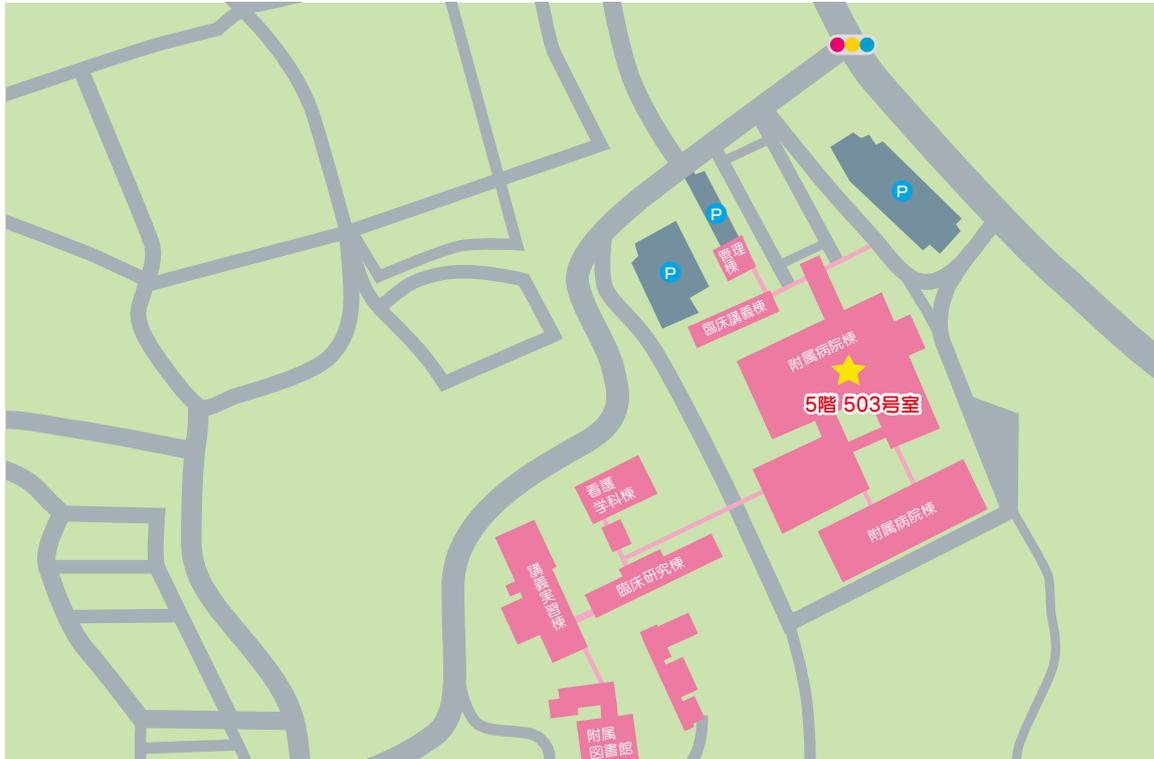
令和3年度第2回全国ダイバーシティネットワーク組織 東海・北陸ブロック会議

・令和3年度の東海・北陸ブロック活動報告

Web 会議



## 32 アクセス・発行について



令和3年度ふじのくに女性医師支援センター活動報告書

発行 印刷日 3月22日

発行 3月29日

発行所 ふじのくに女性医師支援センター

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1-20-1

浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター内

電話/FAX 053-435-2380

E-mail dr-info@hama-med.ac.jp

URL <https://www.fujinokuni-w.jp/>

編集 センター長 山内克哉

コーディネーター（医師）谷口千津子

コーディネーター（事務）袴田菜穂子